

2019年3月8日 第266号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

定例「9の日」宣伝@新宿西口

自衛隊への情報提供は、個人情報保護上、問題あり!

改憲でなく、憲法を実現する社会に!

寒風が吹く中、憲法共同センターは3月8日昼、新宿駅西口で定例「9の日」宣伝に取り組み、8団体20人が参加。3000万人署名は42人の方にご協力いただきました。

はじめに日本共産党の本村伸子衆議院議員が訴え。被爆者の谷口稜嘩（すみてる）さんが命をかけて戦争体験や憲法を守り生かすことの大切さを訴えていることについて話し「こうした思いを被爆二世として伝えていくことが私の使命。野党と市民が力を合わせたたたかいで臨時国会では改憲発議をさせなかった。引き続き、平和憲法を守り生かすため奮闘しましょう」と呼びかけました。

全労連の小田川義和議長は「今日は国際女性デー。憲法施行から72年経つが、人権無視、女性差別は解消されていない。安倍政権は9条改憲を言うが、個人を尊重する、差別をなくすことなど自民党政権がサボタージュしてきたことではないか。9条改憲でなく、憲法にそった政治を実現することが課題だ」と強調しました。

全商連の鎌田保副会長は「74年前の3月10日、東京はアメリカのB29の大空襲で10万人が亡くなった。そして、広島・長崎に原爆が投下された。憲法前文と9条は人類普遍の原則、戦争をしてはならないということを示したものであり、守っていかなければならない」と強調し、「軍事費のために金を使う安倍政権を変えなければならない」と訴えました。

憲法会議の高橋信一事務局長は、「安倍首相は、自衛隊募集に6割以上の自治体が協力していないと言っていたが、9割が協力をしていた。学校でも町内会でもどこでも個人情報に関しては慎重になっている。個人情報を知らせることは大問題だ」と指摘しました。

全国革新懇の矢野裕（ゆたか）代表世話人は「安倍首相は憲法9条に自衛隊を書き込むだけで変わらないというが、それなら改憲の必要はない。憲法に自衛隊を書き込むことは、自衛隊を国会や内閣と同等に置くことだ。そうすると基本的人権が弱められる危険性があり、戦争への道が広げられることになる」と指摘しました。

全労連の長尾ゆり副議長は「二度と戦争をしてはいけない、ウソがまかり通る国にしてはいけない



い、そして、民主主義が守られようにする、そういうことで憲法ができた。憲法を実現する社会にしていかなければならない。国民が望んでいるのは、社会保障の拡充や景気対策、地方の活性化で、改憲など望んでいない。3000万人署名を集め、世論を広げていこう」と呼びかけました。

●京都

自衛隊に情報流すな！市民街宣とデモ 青年やお母さん・市職員もスピーチ

「わたしの個人情報守って！市民の会」が呼びかけ、3月4日夜、「自衛隊に情報流すな！市民街宣とデモ」を京都市役所前で開催。150人が市役所前スピーチと市役所を一周するデモに参加しました。

市民の会呼びかけ人の福山弁護士がこの間の活動経過を紹介し、進行。情報停止請求している2人のお母さんは「子どもと京都市の方針を話し合う中で、自ら『勝手に情報を公開してほしくない』と言って手続きをした。若者にもっと知ってほしい」とスピーチ。18歳の青年は「市民の命や生活を守る京都市政が何してるんや。本人の同意もなく個人情報を渡すのは行政として人としてどうかと思う」とスピーチしました。続けて、市役所の自治体労働者や憲法共同センターから「自治体が赤紙を配った戦前を繰り返してはいけない」と訴えました。

スピーチ後、市役所前から「市長は市民の情報をわたすな！個人情報私のものだ！」などとコールしながら市役所を一周しパレードしました。



●東京・三多摩

3000万人署名の活動交流集会を立川市内で開催 取り組みを立て直す決意を新たに



三多摩市民アクションは2月28日、立川市女性総合センター・アイムで第3回「9条改憲NO！活動交流集会」を開催し、11地域7団体34人が参加者しました。夏の参院選までのたたかいに向けて、情勢と今後の展望を確認し、三多摩各地の活動と到達点、市民の反応、今後の計画などを交流して、3000万人署名を盛り上げていこうと開催したものです。

憲法会議事務局長の高橋信一さんの情勢報告では、昨年、市民と野党の結束したたたかいにより、改憲論議も改憲案提示もさせなかったとした一方で、自民党は小選挙区支部全てに「憲法改正推進本部」を設置し、国民世論の啓発活動に力を入れていることを指摘。「私たちは早期に全国で3000万人署名を達成し、安倍改憲NOの世論をつくるのが重要」と訴えました。

活動交流の場では、三多摩労連を代表して、菅谷さんが発言。三多摩労連は、署名・封筒のセットを作成し、団地などに2100セット配布した経験を紹介しました。現在、署名は返信封筒24通と

ともに 77 人から寄せられています。三多摩労連は、3 月中にもう一度、2000 枚の署名・封筒セットを配布する予定です。「最近署名が進まない」「現在の到達点が見えない、活動の終わりが見えない」といった悩みが報告された一方で、「活動の場所や時間帯を変えて、新たな人に訴えている」「学習会を開き、もう一度署名の取り組みを立て直す」といった発言もあり、各地域、団体がそれぞれ頑張っている様子が報告されました。

●京都

許すな！安倍「改憲発議」！3・2春の憲法大学習会に310人が参加 改憲断念へ向け3000万人署名と対話を進めよう



憲法 9 条京都の会が安倍政権の改憲発議を許さない世論と運動をさらに広げていくため、「春の憲法大学習会」を龍谷大学内で 3 月 2 日に開催し、310 人が参加し熱心に学び、改めて参議院選挙で立憲野党が勝利するまで、油断することなく、3000 万署名による対話と世論を広げていく意思統一をしました。

冒頭代表世話人の木戸衛一さん（大阪大学大学院教員）があいさつし「改憲をねらう安倍内閣の動きをよく学び、改憲を阻止するまでたたかおう」と訴えました。

学習会は九条の会事務局の渡辺治さん（一橋大学名誉教授）が「2019 年、正念場の憲法情勢と運動の展望」と題して講演しました。渡辺さんは「メディアでは、改憲はもうあきらめたなどの報道もあり、マスコミの取り上げ方も小さくなっているが、安倍首相は決してあきらめていない。私たちのたたかいや世論の力で安倍首相の改憲策動を遅らせてきた。しかし、改めて全国の小選挙区総支部に対して取り組みを強めるよう指示し、自衛隊の隊員募集の自治体の姿勢を口実に改憲の必要性を語り、現憲法下でも圧力を加えている」と述べ、今の通常国会で憲法審査会を動かし、改憲発議する可能性を捨てていないと強調しました。「安倍首相はもともと 2020 年に改憲を仕上げると言っており、改憲発議が参議院選挙までに出来なくても、改憲勢力で 3 分の 2 を確保しようとしている。参議院選挙で立憲勢力が勝利して、大きく前進する事が必要。少しの油断をすることなく、3000 万人署名の推進と対話を参議院選挙まで進め、市民と野党の共同で改憲を阻止しよう。今年こそ未来の分岐点の年！全力で戦おう」と訴えました。その後、「京都の会」事務局長の奥野恒久さん（龍谷大学教授）が行動提起を行いました。

★当面の取り組み★

総がかり行動実行委員会「19 日行動」

3 月 19 日（火） 18 時 30 分～ 国会議員会館前

市民連合街頭宣伝

3 月 10 日（日） 16 時～17 時 新宿駅東南口

憲法共同センター学習会 新「防衛計画大綱」と「中期防衛力整備計画」の問題点（仮題）

4 月 22 日（月） 18 時 30 分～20 時 30 分 全労連会館 2 階ホール